

64 視覚障害者ガイドヘルプ用サポーターの提案

～リハビリテーション現場の快適性向上に対する義肢装具士からのアプローチ～
義肢装具技術研究部 矢野綾子、病院 飛松好子、眼科外来・ロービジョン訓練スタッフ一同

<背景>

当センター病院では、視覚障害者が院内を移動する際に、病院スタッフが一緒に歩きながら誘導する「ガイドヘルプ」を行うことがある。ガイドヘルプの基本的な形として、半歩前を歩くガイド者の上腕（肘の上）を、視覚障害者が後方からつかむ方法がある。しかしこの方法においては、夏期などの汗をかきやすい時期に双方の不快感を生じるなど、衛生面に改善の余地がある。そこで、リハビリテーションの現場における快適性向上のために、義肢装具士の観点からアプローチを試みた。

<目的>

視覚障害者とガイド者、双方にとってより快適なガイドヘルプが可能になるよう、誘導時に装着するサポーターを提案する。

<方法>

1. 流れ

- ①サポーター製作に必要な情報を収集するため、眼科外来・ロービジョン訓練スタッフより、使用場面・必要な機能・完成イメージなどに関して、意見を聞き取った。
- ②試作品を提供し、使用感を聞き取った。聞き取った感想を基に改良を加え、完成品に至った。
- ③完成品を眼科外来にて試用中である。

2. サポーターの概要

①構造（図1、図2）

- ・本体：ネオプレン 2mm厚（面ファスナーにて脱着・サイズ調整可能）
- ・上腕シェル：軟性ポリエチレン 1mm厚（取り外し可能）

②機能

- ・ガイドヘルプに必要な条件を阻害しない
（安全性や効率性、安心感 など）
- ・装着による動きの制限が少ない
（他業務に支障がない）
- ・着脱が簡便で、色や形状が目立たない
- ・丸洗いまたは拭取りによる消毒が可能である
- ・複数のガイド者の上肢サイズに適応可能である

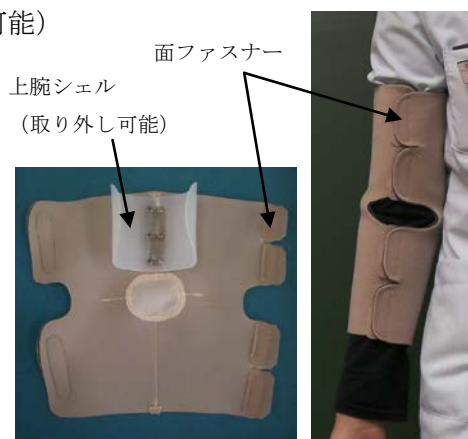


図1 展開図（内面）

図2 装着状態

<まとめ>

リハビリテーションの現場における問題点に対し、義肢装具士の視点から改善方法を検討し、サポーターを提案した。病院スタッフと患者双方にとって、より快適なリハビリテーションを実施するために、義肢装具士の知識・技術を活かすことができるよう、今後も他科との連携を試みていきたい。